

大雪山系縦走報告

8日目（9月3日(木)）

M3 只左一也

2009年8月27日(木)－9月6日(日)

メンバー：M3 只左一也、M3 大橋雄一

1日目：羽田空港→旭川空港→(バス)→層雲峡
→(ロープウェイ・リフト)→七合目→
黒岳→黒岳石室（小屋泊）

2日目：荒天のため沈黙（小屋泊）

3日目：黒岳石室→間宮岳→旭岳→間宮岳
→北海岳→白雲岳避難小屋（小屋泊）

4日目：白雲岳避難小屋→忠別岳→五色岳→
沼ノ原大沼（幕営）

5日目：沼ノ原→五色岳→化雲岳→
ヒサゴ沼避難小屋（小屋泊）

6日目：ヒサゴ沼避難小屋→トムラウシ岳→
南沼キャンプ場（幕営）

7日目：南沼キャンプ場→オプタテシケ山→
美瑛富士避難小屋（小屋泊）

8日目：避難小屋→美瑛富士→美瑛岳→
十勝岳→上ホロ避難小屋（小屋泊）

9日目：上ホロ避難小屋→富良野岳→
富良野岳分岐→(原始ヶ原)→五反沼
→(原始ヶ原)→富良野岳分岐→
原始ヶ原登山口→(車道)→布礼別→
(バス)→富良野駅→(電車)→
上富良野駅→日の出キャンプ場
(幕営)

10日目：十勝岳温泉往復（幕営）

11日目：上富良野→旭川空港→羽田空港(解散)

起床	05:00
美瑛富士避難小屋	07:50 発
美瑛富士分岐	08:35 着/発
美瑛富士	08:55 着 09:00 発
美瑛富士分岐	09:20 着/発
水場	09:25 着 10:45 発
美瑛富士分岐	10:50 着/発
美瑛岳	11:50 着 12:40 発
十勝岳	14:40 着 15:20 発
上ホロ避難小屋	16:00 着（小屋泊）

（歩行時間：約5時間）

この日は短い行程だったので、前日の長時間の行程で疲れていたこともあり、朝はのんびりしていたら出発が8時近くになってしまった。この日も朝から快晴で、青空の下、気分よく出発。

美瑛富士、美瑛岳、十勝岳登山口方面の分岐点となる美瑛富士分岐に荷物を置いて、美瑛富士を往復。山と高原地図では50分となっているが、20分で山頂に到着。展望を楽しみ、分岐に引き返す。この日の宿泊予定地、上ホロ避難小屋も水が期待できないので、どこかで探さなければいけなかったが、幸いなことに、前夜に避難小屋で一緒だった人が昨日登って来る途中でこの美瑛富士分岐のすぐ近くで見つけた雪溪の写真を撮っていて、私たちはその写真を見せてもらって正確な場所を教えてもらっていた。美瑛富士山頂から分岐に下るときに、その雪溪が確認できたので、少し寄り道になるが分岐に戻ってからその雪溪に向かった。

雪溪の下の水たまりは大きくはなかったが2人の1日分としては十分だった。エキノコックスが怖いので沸かして持っている水筒にいっぱいにした。

分岐に戻り、今度は縦走路を進んで美瑛岳を登る。開けた明るい道を登り、山頂への分岐で荷物を置き、空身で山頂に向かう。ここで景色は一変して荒涼とした感じとなった。南側に口を開けている荒々しい噴火口の縁を進み、山頂に到着。このあたりは下界からのアクセスが良かったためか、山頂にはすでに人が休んでいて、私たちが休憩している間にも人が何人

か登ってきた。ここも展望が素晴らしく、特にどっしりとした十勝岳の姿は印象的だった。

分岐に戻り、噴火口の縁にそって縦走路を進む。途中で何人かの登山者とすれ違った。

景色はさらに荒涼とした感じになり、植物のほとんどまったく生えない火山灰と火山礫の上を歩くようになるが、これがまた歩きにくい。急斜面では一步一步崩れて、なかなか思うように進まない。次第にペースが落ちたところで、ようやく十勝岳の小ピーク直下の台地にでた。小ピークを登り、14時40分、360度大展望の十勝岳山頂に到着。

40分ほど展望を楽しみ、出発。あとは、見えている目的地の上ホロ避難小屋に向かってだらだら下るだけである。比較的痩せた稜線の西側は火山活動のため崩れて切れ落ちている。40分ほどで小屋に到着。この日、同宿は非常に太った中年のおじさん2人だけだった。

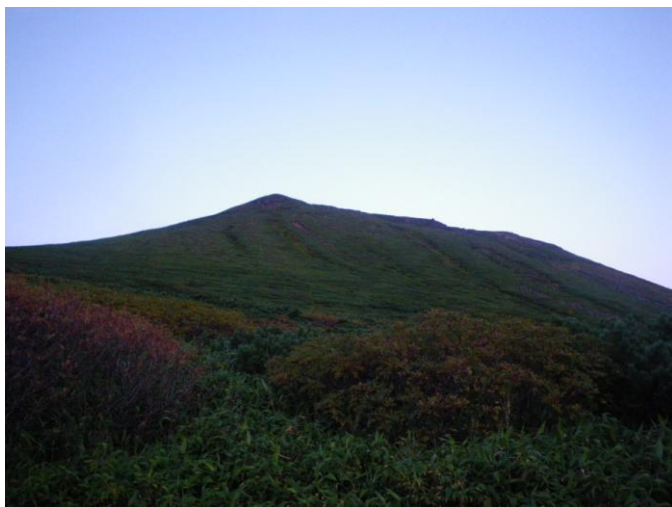
私たちは夕食後、すぐ近くの上ホロカメットク山のピークに登り、夕暮れの景色を楽しんだ。



8時前、ようやく小屋を出発。



正面に見えるのは美瑛岳。



小屋から美瑛富士を見上げる。





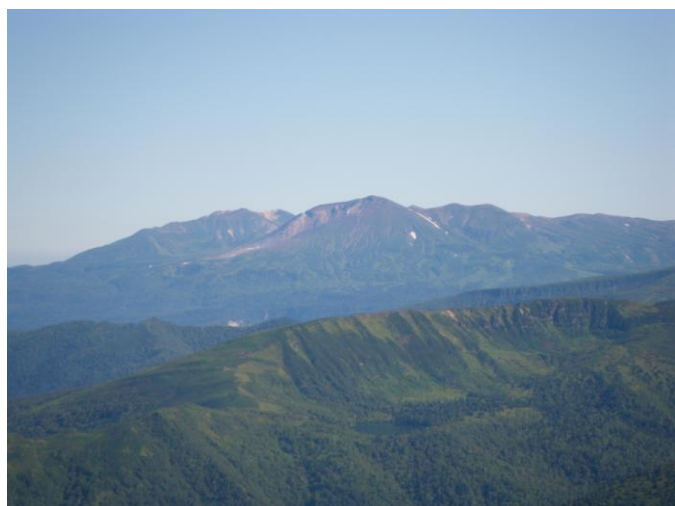
美瑛富士分岐。



オプタテシケ山。



分岐に荷物を置いて、美瑛富士(1888m)山頂を往復。



中央は旭岳。



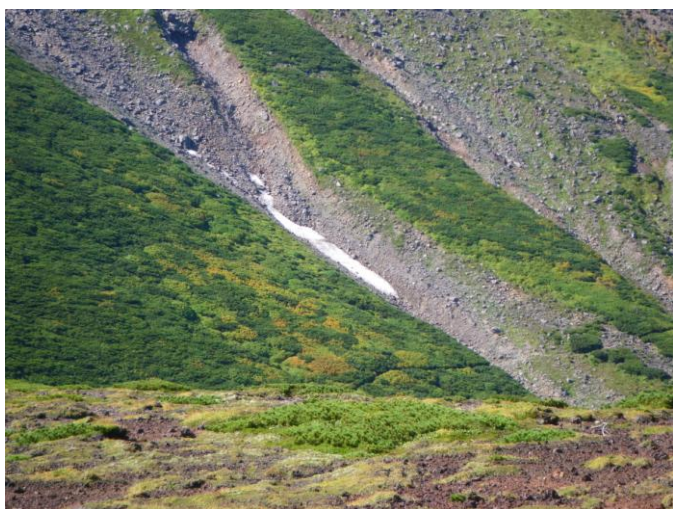
美瑛富士山頂。山頂は 360 度の大展望。



昨晚泊まった日安吾屋を見下ろす。



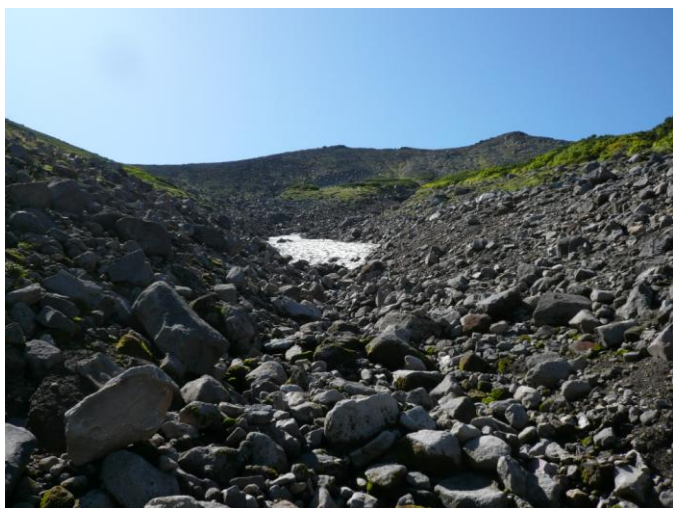
正面には美瑛岳。



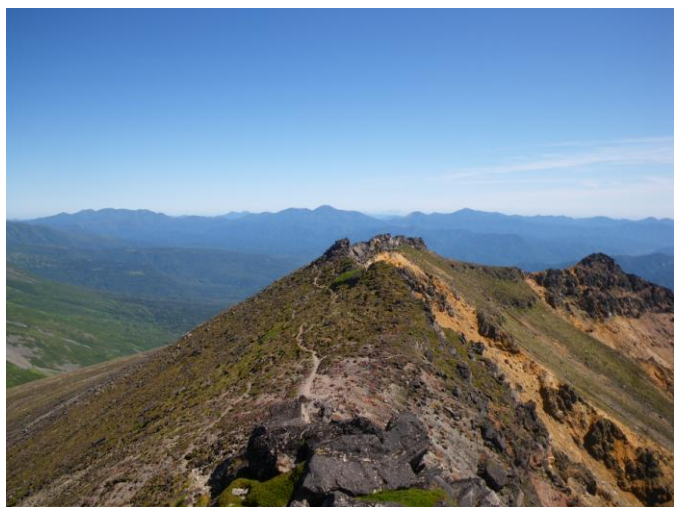
昨晚同宿だった人に教えてもらった雪溪。



分岐に戻り、美瑛岳の斜面を登る。



水を汲みに雪溪に向かう。



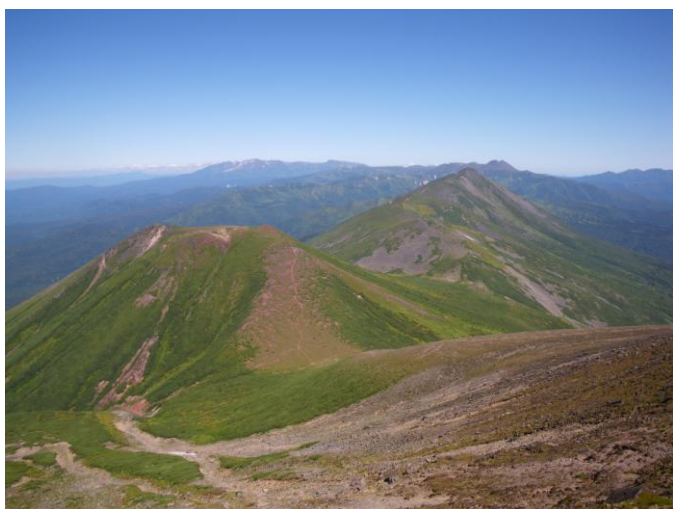
美瑛岳のピークは大きな噴火口を取り囲む稜線上にある。噴火口側は切れ落ちている。向こうには東大雪の山々。左から、石狩岳、ニペソツ山、ウペペサンケ山。



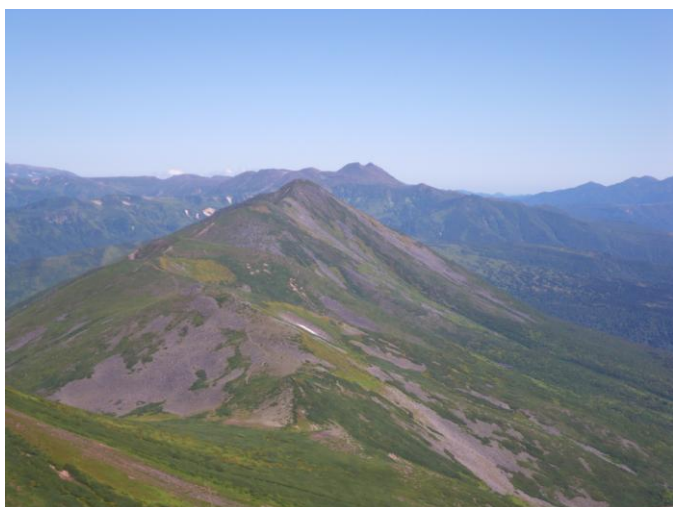
美瑛岳（2052m）山頂から富良野の街を見下ろす。



南にはどっしりした十勝岳。



北の眺め。手前は美瑛富士、その少し向こうの右側はオプタテシケ山。そのすぐ後ろに見えるのはトムラウシ、遥か遠く中央左に見えるのが旭岳。



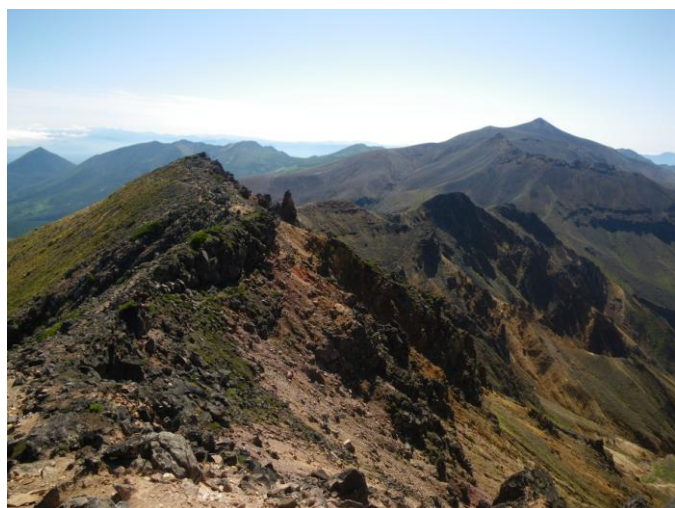
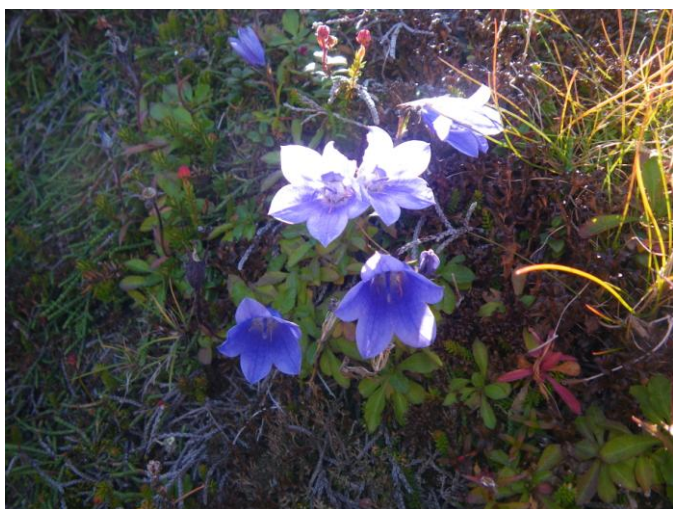
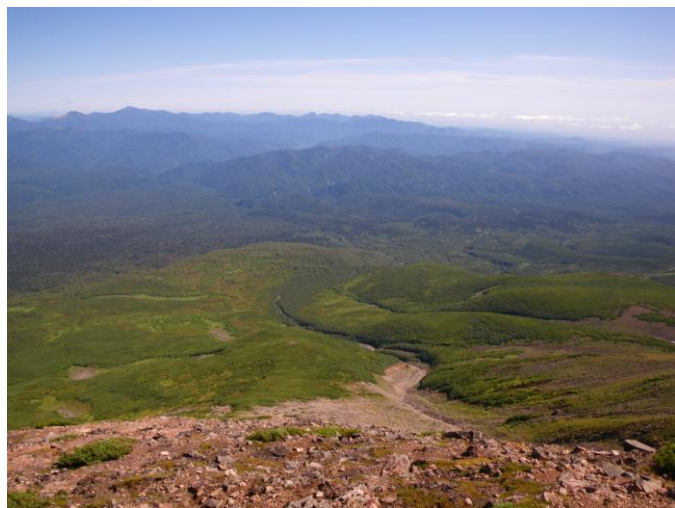
オプタテシケ山とトムラウシ山（遠くの双耳峰）。



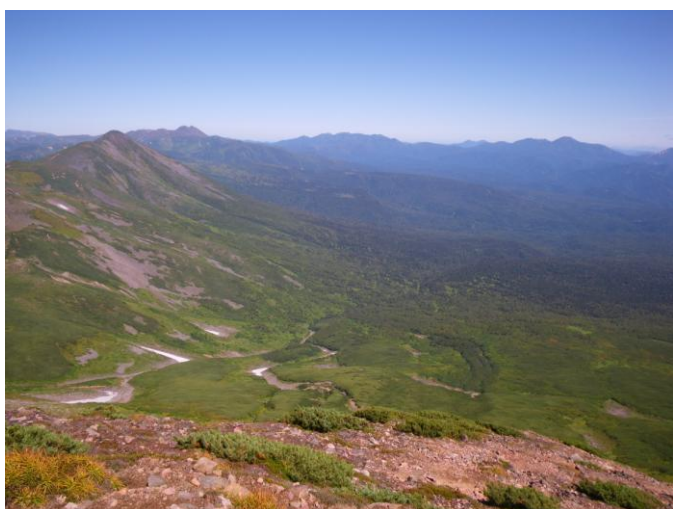
現在も火山活動が続いている。中央の山は富良野岳、遠くに霞むのは夕張山脈。



昭和噴火口。1954年の噴火の際にできたそうである。



噴火口の縁を進む。



稜線の南東側には広大な原野が広がる。





さらに植物が少なくなる。



火山灰と火山礫の道で歩きにくい。



火山灰の急斜面を登る。



十勝岳ピーク直下の台地。



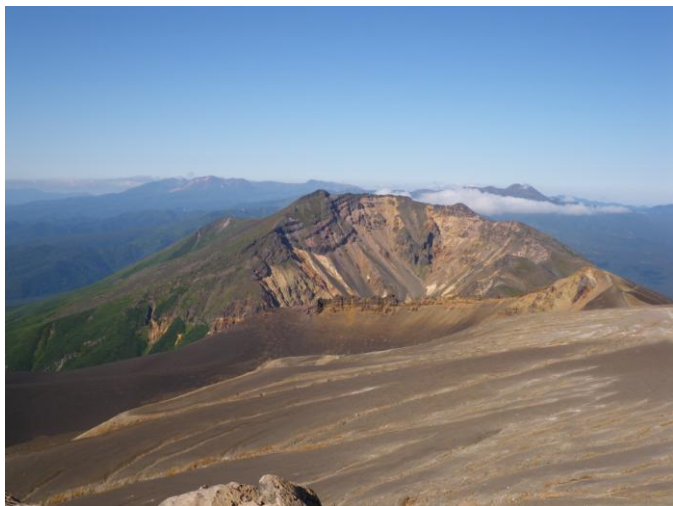
十勝岳山頂までもう少し。



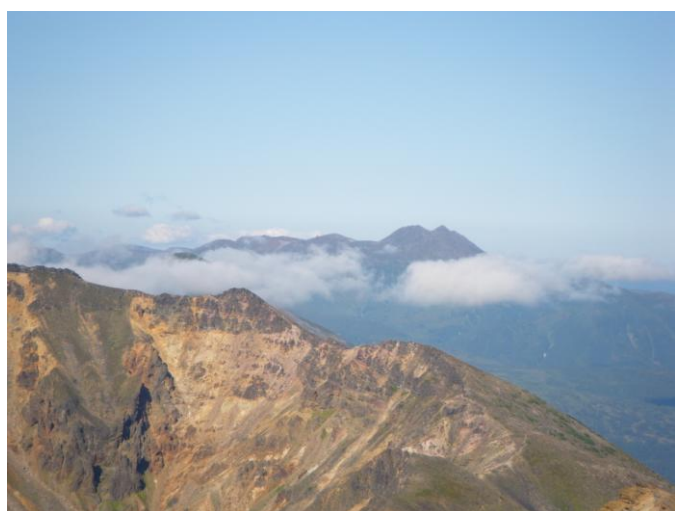
美瑛岳を振り返る。



十勝岳（2077m）の山頂。大展望が広がる。右は美瑛岳。



美瑛岳と、旭岳（左遠方）、トムラウシ山（右遠方）。



トムラウシ山遠望。



南には富良野岳まで続く稜線。



西斜面のあちこちから噴煙が上がる。



火山礫の斜面を下る。



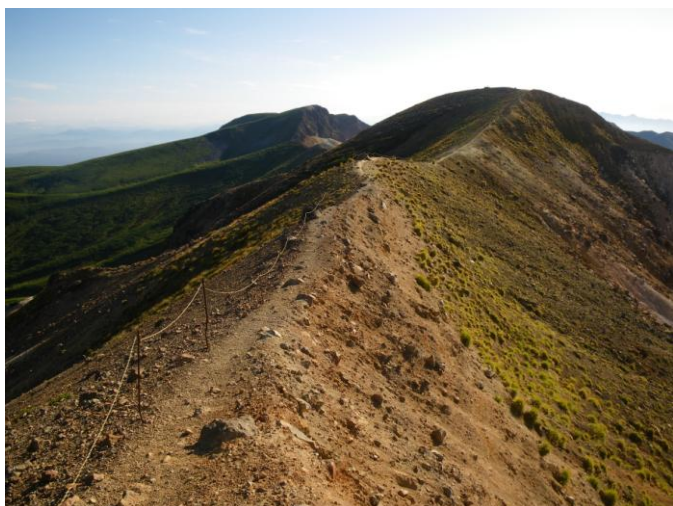
十勝岳を振り返る。



この日の目的地、上ホロ避難小屋が見える。そのすぐ向こうのピークは上ホロカメットク山（1920m）。



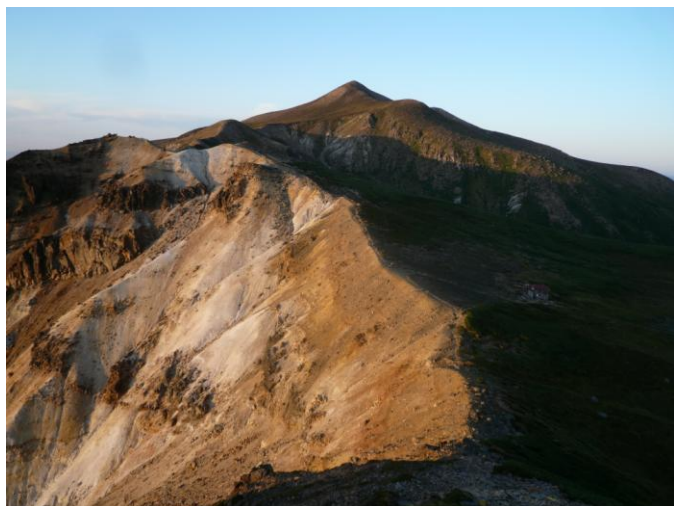
起伏が少なく歩きやすい稜線を進む。



西側は火山活動のためこの通り崩れ落ちている。



谷底から噴気が上がる。



十勝岳を振り返る。



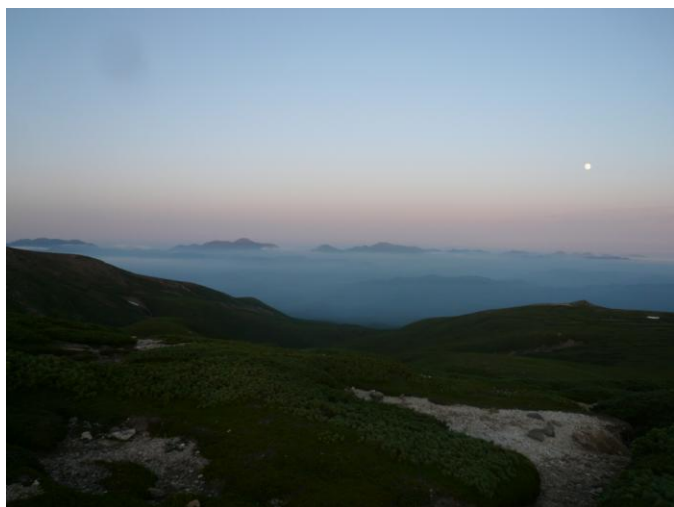
16 時、上ホロ小屋に到着。夕食を済ませ、上ホロカメットク山のピークにぶらりと出かけた。



上ホロカメットク山頂に到着。



上ホロカメットク山頂直下の登り。



月と東大雪の山々（左から石狩岳、ニペソツ山、ウペペサンケ山）。